

# 2022年度 環境経営レポート

対象期間2022年4月～2023年3月

2023年6月25日発行

株式会社 東北マツダ

# 目次

1. 組織の概要 1P

2. 対象範囲及び実施体制 2～3P

3. 環境経営方針 4P

4. 環境経営目標 5P

5. 環境活動計画 6P

6. 環境目標の実績 7P

7. 環境活動の取組結果と評価、次年度の取組内容 8～9P

8. 環境関連法規等の遵守状況及び違反、訴訟の有無 10P

9. 代表者による全体評価と見直しの結果 11P

# 1. 組織の概要

## 1. 事業社名及び代表者

株式会社東北マツダ  
代表取締役 池田 保之

## 2. 所在地

宮城県仙台市宮城野区小田原一丁目3番23号

## 3. 事業内容

自動車、その他部品及び附属品の販売並びに修理

## 4. 事業の規模

拠点数	37拠点	秋田県	7拠点
		岩手県	6拠点
		宮城県	16拠点
		山形県	8拠点

対象拠点数	全拠点
従業員数	698名 (2023年3月31日現在)
年間売上高	222億4千万円 (2023年3月期)
資本金	3億4千8百万円
ホームページ	<a href="http://tohoku-mazda.co.jp">http://tohoku-mazda.co.jp</a>

## 5. 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者	執行取締役	高橋 寿和
E A 2 1 推進委員	管理部経理 G r .	駒田 大輔
連絡先	022 (297) 2122	

## 2-1. 対象範囲及び実施体制

### ・秋田事業部

大館店	017-0864	大館市根下戸新町19-74
能代店	016-0871	能代市昇平岱22-11
中央店	010-0916	秋田市泉北1-1-2
大曲店	014-0017	大仙市佐野町9-3
秋田本店	010-0965	秋田市八橋新川向15-39 (秋田事業本部併設)
横手店	013-0811	横手市安本字南御所野156-6
本荘店	015-0013	由利本荘市石脇字田尻野24-19

### ・岩手事業部

都南店	020-0837	盛岡市津志田町1-5-8 (岩手事業本部併設)
上堂店	020-0125	盛岡市上堂4-8-8
花巻店	025-0006	花巻市下似内17-6-2
北上店	024-0004	北上市村崎野22-133-3
水沢店	023-0003	奥州市水沢区佐倉河字嶋館21-1
一関店	021-0051	一関市山目三反田7-1

### ・宮城事業部

泉店	983-3117	仙台市泉区市名坂字御釜田121-1
日の出店	983-0035	仙台市宮城野区日の出町1-1-31
名取店	981-1224	名取市増田5-17-16
石巻店	986-0856	石巻市大街道南1-2-96
佐沼店	987-0511	登米市迫町佐沼字萩洗2-3-8
南吉成店	989-3204	仙台市青葉区南吉成2-17-6
小田原店	983-0803	仙台市宮城野区小田原1-3-23 (本部、宮城事業本部併設)
長町店	982-0023	仙台市太白区鹿野3-15-43
六丁目店	984-0004	仙台市若林区六丁の目東町7-21
多賀城店	985-0874	多賀城市八幡2-16-36
古川店	989-6104	大崎市古川江合錦町2-3-3
柴田店	989-1604	柴田郡柴田町船岡東1-7-13
古川1-カーラント	989-6171	大崎市古川北町5-3-3
富谷店	981-3328	富谷市上桜木1-1-9
宮城板金塗装センター		983-0034 仙台市宮城野区扇町2-4-19
黒松サービスセンター	981-0902	仙台市青葉区北根2-8-20

### ・山形事業部

山形本店	990-0835	山形市荒楯町2-1-80 (山形事業部併設)
酒田店	998-0832	酒田市両羽町6-22
鶴岡店	997-0046	鶴岡市みどり町16-36
新庄店	996-0041	新庄市鳥越字玉の木960
天童店	994-0027	天童市桜町10-1
寒河江店	991-0043	寒河江市島字島東79-4
南陽店	999-2223	南陽市俎柳字六百刈991-1
米沢店	992-0011	米沢市中田町2-1800

## 2-2. 対象範囲及び実施体制

### 実施体制 (2023/6/1時点)

#### ■環境総括責任者

代表取締役 池田 保之

#### ■E A 2 1 全体総括

執行役員 管理副本部長 高橋 寿和

#### ■E A 2 1 監査指導

管理部監査室次長 遠藤 秋宏

管理部監査室次長 鎌田 佳謙

管理部監査室課長 安田 正志

#### ■E A 2 1 事業部推進

秋田事業部長 吉田 光

岩手事業部長 海風 孝一郎

宮城事業部長 廣田 慶次

山形事業部長 菅原 研司

#### ■E A 2 1 事業部推進担当

営業本部サービス営業部課長 伊藤 好晃 (秋田)

営業本部サービス営業部課長 門間 千晶 (岩手)

営業本部サービス営業部課長 渡邊 光矢 (宮城)

営業本部サービス営業部課長 伊藤 純一 (山形)

#### ■各拠点

秋田本店・法人営業部 (秋田) ・秋田板金塗装センター・秋田事業本部、大館店、能代店、中央店、大曲店、横手店、本荘店

都南店・法人営業部 (岩手) ・岩手事業本部、上堂店、水沢店、花巻店、北上店、一関店

小田原店・法人営業部 (宮城) ・本部、泉店、日の出店、名取店、石巻店、佐沼店、南吉成店、長町店、六丁目店、多賀城店、古川店、柴田店、古川ユーカーランド、富谷店、宮城板金塗装センター、黒松サービスセンター

山形本店・法人営業部 (山形) ・山形板金塗装センター・山形事業本部、酒田店、鶴岡店、新庄店、天童店、寒河江店、南陽店、米沢店

#### ■E A 2 1 推進事務局

管理部経理グループ課長 駒田 大輔

## 3. 環境経営方針

### 環境経営方針

#### 基本理念

株式会社東北マツダは自動車販売、整備等の事業活動を通じ、すべての笑顔のために、確かな技術と感動を与えるサービスの提供によるブランド価値向上を目指すとともに、環境経営の継続的改善により環境への負荷の軽減に取り組み、地域環境・地球環境の保護に貢献いたします

#### 環境保全に向けての活動指針

- 地球温暖化防止に向け二酸化炭素排出量削減・省エネルギーへの取り組みをする
- 循環型社会に向け、使用済み自動車・廃棄物リサイクルの推進をする
- 事業活動に適用される環境関連法規その他要求事項を遵守する
- 顧客価値、社内価値、企業価値を高め、ブランド価値向上に邁進する
- 環境保全上の支障を未然に防止する為、使用する化学物質の適正管理を徹底する
- 限りある資源を大切にする為、省資源・節水に努める
- 働きやすい環境の創生、従業員の環境意識向上とともに、地域貢献活動により地域社会との融和を図る
- 全従業員に、この環境経営方針を周知徹底するとともに、環境報告書を作成・公表する

平成22年4月1日 制定

平成22年10月31日 改定

平成23年6月30日 改定

平成28年4月1日 改定

平成28年5月1日 改定

令和元年4月1日 改定

令和元年7月1日 改定

株式会社 東北マツダ  
代表取締役 池田 保之

## 4. 環境経営目標

株式会社 東北マツダ

2022年度

# 環境経営目標

### 働き方改革を推進して環境負荷軽減に貢献する

年間総残業時間 昨年実績 ▲0.3% 52,774時間  
1人当たり年間総残業時間 昨年実績 ▲12分 84.6時間

次年度以降は実績に応じ目標設定をする

### CO<sub>2</sub>・産業廃棄物排出量・水使用量の削減

項目	単位	2021年度 計画	2022年度 計画	2023年度 計画
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	3,065,632	3,050,304	3,035,052
廃棄物排出量	kg	791,983	788,023	784,083
水使用量	m <sup>3</sup>	16,574	16,491	16,409

※2018年実績より二酸化炭素排出量算出における電気使用量による二酸化炭素排出量算出の排出係数は、出光グリーンパワー株式会社平成28年度調整後排出係数「0.581kg-CO<sub>2</sub>/kwh」を使用しております

### 環境保全上の支障を未然に防止する為、使用する化学物質の適正管理を徹底する

承認	作成

環境管理責任者 EAZ1 標準事務部

作成日：2022/4/18

## 5. 環境活動計画

### 2022年度 環境活動計画

地球温暖化防止に向け二酸化炭素排出量削減・省エネルギーへの取り組みをする

主要項目である電力使用量の削減に対する取組

メジャーサイン点灯・消灯時間の管理徹底

バックヤード照明の休憩時間消灯

クールビズ・ウォームビズ実施の継続

循環型社会に向け、使用済み自動車・廃棄物リサイクルの推進をする

ELV(使用済み自動車)の適正管理

産業廃棄物の適正排出・リサイクルの促進

事業活動に適用される環境関連法規その他要求事項を遵守する

関連法規等の“見える化” 関連法規等一覧、法改正などの対応

顧客価値、社内価値、企業価値を高め、ブランド価値向上に邁進する

マツダ車の価値、東北マツダの価値の選及

お車の維持管理といただく為バックdeメンテの販売と入庫促進

環境保全上の支障を未然に防止する為、使用する化学物質の適正管理を徹底する

飯金塗装で使用する塗料・溶剤の適正管理と集計表を用いた管理を行う

限りある資源を大切にす為、省資源・節水に努める

会議資料の電子化によるペーパーレス化促進

働き方改革と環境負荷低減を両立して好循環化を推進する

定時退社日を促進しながら就業時間外の労働軽減に努める

労働生産性向上の為、業務の効率化を促進する

地域貢献活動により地域社会との融和を図る

各店舗の地域に合った地域貢献活動を実施する

全従業員に、この環境経営方針を周知徹底する

環境意識向上の為、会議・ミーティング等を利用し教育を行う

承認	作成

環境管理責任者 EA21推進事務局

作成日：2022/4/18

## 6. 環境目標の実績

二酸化炭素排出量（電力・ガス・燃料）及び産業廃棄物排出量並びに水使用量  
残業時間実績

### 2022年度実績

項目	単位	目標	2022年度	2021年度	前年差	目標差			
二酸化炭素排出量	kg-CO2	3,050,304	2,344,801	2,422,988	-78,187	○	-705,502	○	23.1%
廃棄物排出量	kg	788,023	625,187	735,609	-110,422	○	-162,836	○	20.7%
水使用量	m <sup>3</sup>	16,491	15,289	62,037	-46,748	○	-1,202	○	7.3%

※2021年実績より二酸化炭素排出量算出における電気使用量による二酸化炭素排出量算出の排出係数は、出光グリーンパワー株式会社令和3年度調整後排出係数「0.48kg-CO2/kWh」を使用しております

		2022年度	2021年度	前年差	
電力	kg-CO2	1,261,827	1,395,382	-133,555	○
ガソリン	kg-CO2	521,496	480,885	90,811	×
軽油	kg-CO2	359,326	379,217	-25,890	○
灯油使用量	kg-CO2	178,785	165,897	13,088	×
都市ガス	kg-CO2	0	0	0	
プロパンガス	kg-CO2	29,387	52,008	-22,640	○

		④温室効果ガス排出量	
	使用単位	排出係数 (B)	単位
購入電力	kWh	0.483	kg-CO2/kWh
都市ガス	Nm <sup>3</sup>	2.16	kg-CO2/m <sup>3</sup>
液化石油ガス (LPG)	m <sup>3</sup>	3	kg-CO2/kg
灯油	L	2.49	kg-CO2/L
ガソリン	L	2.32	kg-CO2/L
軽油	L	2.58	kg-CO2/L

0.502 (m<sup>2</sup>→kg)

	目標	時間	目標差	前年差
年間総残業時間	52,774時間	55,040時間	2,266.0時間	△ 2,107時間
1人当り年間総残業時間	82時間	88時間	6.3時間	△ 4時間

### 南吉成店 2023年3月竣工



## 7-1. 環境活動の取組結果と評価、次年度の取組内容

### ■二酸化炭素排出量 ○

目標	3,050,304kg-CO <sub>2</sub>
実績	2,344,801kg-CO <sub>2</sub>
結果	705,502kg-CO <sub>2</sub> 達成 23.1%達成

#### 【結果・要因】

エネルギー使用量は灯油・ガソリンの使用量が増加した。  
電力・プロパン・軽油の使用量については、減少した。

・電力使用量(kWh) ○

・都市ガス(Nm<sup>3</sup>) -

・プロパンガス (m<sup>3</sup>) ○

・灯油使用量 (ℓ) ×

冬季間の豪雪と寒気の影響により、暖房用の灯油使用量が増加したと思われる。

・ガソリン使用量 (ℓ) ×

コロナ禍稼働減少があるが、少しづつ通常稼働に戻つつあると思われる。

・軽油使用量 (ℓ) ○

### ■廃棄物排出量 ○

(目標788,023kg、実績625,187kg、結果162,836kg達成)

#### 【結果・要因】

目標より7.8%達成でした。

整備在庫台数に3%程度の減少、車両の供給遅れによる納車台数減が原因で、  
廃棄物排出量の減少につながったと考えられる。

### ■水使用量 ○

(目標16,491m<sup>3</sup>、実績15,289m<sup>3</sup>、結果45,464m<sup>3</sup>未達成)

#### 【結果・要因】

目標より7.3%達成でした。

整備在庫台数が3%程度の減少、無償洗車の抑制などが要因と考えられる。

### ■働き方改革（残業時間） △

(目標：総残業時間52,774時間/年 1人当残業時間82.4時間/年)

実績：総残業時間55,040時間/年・1人当残業時間88.8時間/年)

#### 【結果・要因】 ×

目標未達成となりました。

総残業時間で年間2266時間増加は、月平均188.8時間の増加となった。

1人当り月約19分の増加になったが、人員減傾向の中生産性確保の為の労働時間増加分と考えられる。

## 7-2. 環境活動の取組結果と評価、次年度の取組内容

### ●化学物質の適正管理

#### 結果

4箇所の塗装を行う工場にて、取扱量を把握し、適切に管理を行っております。

秋田事業部 秋田板金塗装センター：指定量以下

宮城事業部 宮城板金塗装センター：指定量以下

山形事業部 山形板金塗装センター：指定量以下

### ■次年度以降の取組

#### ◎二酸化炭素排出量

現在実施している取組を継続、売上とのバランスを考慮する

#### ◎水使用量

現在実施している節水の取組を再徹底する

#### ◎廃棄物排出量

現在実施している取組を継続、売上とのバランスを考慮する

#### ◎労働時間の適正化

定時退社日等を促進し残業時間圧縮をする

#### ○化学物質適正管理

現在実施している取組を継続する



**南吉成店 2023年3月竣工**



## 8. 環境関連法規等の遵守状況及び違反、訴訟の有無

環 境 関 連 法 規 等		評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律		○
・廃棄物の適正処理 ・マニフェストの管理	認可業者に廃棄物処理を依頼している 期限内にマニフェストがそろっている	
自動車リサイクル法		○
・使用済自動車（ELV車）の適正処理 ・引取事業者の登録	ELV車を預かった際、適正に処理している 引取業者登録をしている	
浄化槽法		○
・保守点検 ・清掃記録	年1度以上の保守点検・水質検査をしている	
騒音規制法		○
・特定施設の届出 (エアコンプレッサ)	該当施設は届出している (法令・条例以上のもの)	
振動規制法		○
・特定施設の届出 (エアコンプレッサ)	該当施設は届出している (法令・条例以上のもの)	
消防法		○
・少量危険物の届出（貯蔵所、取扱書）	該当施設は届出している (法令・条例以上のもの)	
エネルギーの使用の合理化に関する法律		○
・エネルギー使用量の把握（省エネ法）	エネルギー使用量を把握している	
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法・P R T R法）		○
・特定化学物質の排出量・移動量の把握 ※第一種指定化学物質の年間取扱量指定値以上の事業所は届出対象	該当拠点は届出している	
水質汚濁防止法		○
・特定施設の届出 (自動式車両洗浄施設)	該当施設は届出している	

### ●違反・訴訟の有無

自己評価の結果、環境関連法規等に違反はなく、また過去3年間、関係機関からの処分も受けておりません。

同様に訴訟等についても、1件もありませんでした。

## 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

### 代表者による全体の評価と見直し結果の記録

見直し年月日	2023年3月18日 土曜日 (時間 17:30~18:00)
場 所	株式会社東北マツダ 本社会議室
出席者	平石社長 岡常務 駒田 村上
見直し結果	下記のとおり

見直し 関連情報	点検項目	環境管理責任者の説明概要, 提案等 参考資料
	環境目標及び達成状況	参考資料: CO2 排出量シート、環境への負荷の自己チェックシート等
	環境活動計画及び実施状況	働き方改革 (2022 年度残業時間.xls 追加資料: 時間外手当調査シート 2022)
	環境関連法規の遵守状況	参考資料: 法令チェックシート等
	外部からの苦情・要望関連事項	該当なし
	是正及び予防処置の状況	該当なし
	内部監査結果	参考資料: 2023 年度監査実施計画(案)
	前回までの代表者指示事項への対応	参考資料: 塗料関連事業所ごと取扱量、修正中期目標
	その他	

代表者による 全体評価と 見直し	点検項目	見直し 要否	代表者による指示事項
	環境方針	要 <input checked="" type="radio"/>	特になし
	環境目標	要 <input checked="" type="radio"/>	特になし
	環境活動計画	要 <input checked="" type="radio"/>	特になし
	環境関連法規の遵守	要 <input checked="" type="radio"/>	特になし
	実施体制	要 <input checked="" type="radio"/>	特になし
	苦情・要望対応	要 <input checked="" type="radio"/>	特になし
	その他	要 <input checked="" type="radio"/>	特になし

〈代表者の総合評価・コメント〉 (環境経営システムの有効性、環境への取組の適切性等)  
 2022 年度もコロナウイルス感染再拡大による影響と、ウクライナ侵攻などにより先行き不透明感が高まりました。今後の懸念材料も多く取り巻く環境は厳しいものとなっております。このような環境だからこそ、業務品質水準の向上、労働環境改善、業務継続性強化を行うことは必須と考え、環境目標としても働き方改革に取り組むことを継続し、今後も取組を進めるべく推進していきます。

承認	確認	記録作成
(代表者)	(環境管理責任者)	(環境管理事務員)